

幼児に起こり得る「事故と防止策」編

守りたい! 子どもたちの笑顔

～大切ないのちのために、AKB48と幼児安全法を学ぼう～

思わぬ事故から子どもたちを守る

子どもの事故の大部分は、家の中やその周辺で発生しています。どこに危険が潜んでいるのかを知り、注意を払うことが、事故を未然に防ぐポイントです。



おうちの中は危険がいっぱい!

やけど



- 火の付いたたばこを握ってしまう
- テーブルの上にある味噌汁などをかぶる
- ストーブややかんに触る
- 加湿器の熱風を浴びてしまう
- ポットやアイロンをいたずらする
- 熱いシャワーを浴びてしまう

誤飲・窒息



- たばこやボタン型電池などを口にすると
- 豆類やあめ玉が気管に詰まる
- ビニール袋や風船で口をふさがれる
- ふかふかの布団でうつぶせ寝で窒息する
- 毛布や布団が顔にかかると息ができない

転落



- 窓から乗り出す
- ベランダから階下へ落ちる
- いすやベッド、階段から落ちる



溺水 (おぼれる)

- お湯や水を入れた湯船に落ちる
- 水が入った洗濯機に落下する
- バケツや大きな水槽に頭から落ちる

その他のけが

- テーブルの角に頭をぶつける
- ドアに手を挟む
- 扇風機に手を挟む
- 開き戸や引き出しに手を挟む
- 包丁やはさみ、カミソリをいたずらする

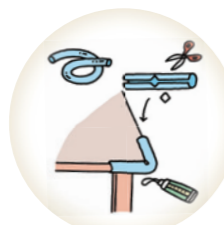


ひと工夫で事故防止を

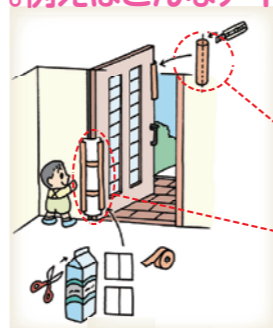
事故につながるものを子どもの手の届く範囲に置かないことが大切ですが、小さな工夫が事故防止に役立つこともあります。例えばこんなアイデアは――。



ゴムホースでコーナークッション



テーブルの角が当たった角にぶつけて、頭を切るような事故の防止になります。



牛乳パックでドアの指挟みを防止

取っ手側はラップの芯を2つに切って使います。

ドアと壁の隙間に指を挟む事故の防止になります。

赤十字講習に参加して学ぼう!

日本赤十字社は全国各地で、「子どもに多い病気やけがとその手当」を学べる赤十字幼児安全法を開催しています。

www.jrc.or.jp/study/join/
0570-009595

WEBで学ぼう!



how toサイト「nanapi」で乳幼児の一次救命処置の方法を動画(3分程度)とテキストでご覧いただくことができます。

●乳幼児に対するAEDの使い方 nanapi.jp/79531/

幼児に対する「心肺蘇生とAED」編

守りたい! 子どもたちの元気

～いのちを守る方法をAKB48と学ぼう～

とっさの手当て(一次救命処置)が命を救います。



保護者はもちろん、保育士や先生、スポーツ指導員など乳幼児と接する人に学んでほしいな



心停止!いのちを左右する一次救命処置

1 子どもの意識を確認



乳児(1歳未満):足の裏をたたいて刺激します。
幼児(1～6歳未満):肩をたたきながら、耳元で声をかけます。反応がないときは、協力者を求め、119番通報を行い、幼児の場合はAED(自動体外式除細動器)の手配を依頼します。

2 息をしているか素早く判断



胸とお腹の動きをよく見て、普段どおりの呼吸がなければ心停止と判断。この判断には10秒以上かけないようにします。

3 心肺蘇生で血液と酸素を送る



胸骨圧迫(心臓マッサージ)

乳児:胸の真ん中に2本の指を垂直に立てて、胸の厚さの3分の1程度沈み込むように強く圧迫します。
幼児:片手または重ねた両手の手のひら下部(手関節部)を胸の真ん中で圧迫します。乳幼児いずれの場合も、毎分少なくとも100回のテンポで圧迫します。

気道確保と人工呼吸

子どもの場合はできるだけ早く人工呼吸を行います。下あごを上げて空気が通りやすくなります。その状態で、乳児は口と鼻を自分の口で覆うように密着させ、息を吹き込みます。幼児は鼻をつまみ、口を覆って行います。人工呼吸2回、胸骨圧迫30回を繰り返します。

4 AEDで心臓の動きを正常に



※AEDがない場合は胸骨圧迫と人工呼吸を繰り返します。
心臓のけいれんを抑えて、正常な動きに戻す装置がAEDです。電源を入れ、音声ガイドの指示通りに電極パッドを胸部に貼ると、自動で心電図を解析。電気ショックの必要・不要を判断してくれます。電気ショックの後(またはショックが不要な場合は)直ちに、心肺蘇生を再開します。

窒息事故から子どもを救う気道異物除去



背中をたたく

乳児:片方の手で後ろ側からあごを持ち、その腕に乳児の背を乗せて頭を下にしてうつ伏せに。もう一方の手の手関節部で背中の真ん中をたたきます。
幼児:お腹の辺りで抱きかかえ、頭を低くして、背中をたたきます。

※喉の異物が取れるまで繰り返しますが、窒息により意識がなくなった場合は、心肺蘇生を行います。



指で胸を圧迫する

手のひら全体で後頭部を抱えたまま、片方の腕に乳児の背を乗せてあおむけに。もう一方の手の2本の指で胸の真ん中を強く数回連続して圧迫します。心肺蘇生の胸骨圧迫と同じ方法です。



抱きかかえて突き上げる

後ろから両手で抱く形で、おへそのすぐ上辺りに握りこぶしの手を当て、手前上向きに瞬間的に突き上げます。内臓を傷めている可能性があるため、異物が除去できた場合でも速やかに医師の診察を受けてください。

幼児の場合は、すぐに本人に強い咳をさせます。それでも喉につまったものがとれない場合、119番通報と手当が必要です。

赤十字講習に参加して学ぼう!

日本赤十字社は全国各地で、「乳幼児の心肺蘇生とAEDの使い方」を学べる赤十字幼児安全法を開催しています。

www.jrc.or.jp/study/join/
0570-009595

乳幼児は手にとる物を何でも口に入れてしまいます。突然苦しみだしたら、喉に何かつまっている可能性が大!



WEBで学ぼう!



how toサイト「nanapi」で乳幼児の一次救命処置の方法を動画(3分程度)とテキストでご覧いただくことができます。

●乳幼児に対するAEDの使い方 nanapi.jp/79532/